

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- “未来を創造する学生”を生み出す行学一如 -Intermediator・Facilitator への挑戦-
 総合情報センター所長
 経営学部教授 青木 茂樹
- 「私の授業」
 医療健康科学部 学部長
 西尾 誠示
- 平成 30 年度
 新規採用教員オリエンテーション
- 平成 29 年度活動報告
- FD推進委員会の今後の活動予定

“未来を創造する学生”を生み出す行学一如 -Intermediator・Facilitator への挑戦-

総合情報センター所長
 経営学部教授 青木 茂樹

総合情報センターでも学生ファーストを議論しているが、学生を利得的に満足させることではなく、学生が創る未来を見据えた効率かつ効果的な情報環境投資を考えている。

オックスフォード大マイケル・A・オズボーン准教授が「10年後に世の中の半分の仕事なくなる」とか、デューク大キャシー・デイビットソン教授が「小学生の65%がいま無い仕事に就く」と発表し騒がれているが、企業もVUCA(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)の経営環境に大きく経営スタイルを変えている。

テンプレ大学の小田部正明教授は「iPhoneには10万点の特許が入っている。特許を塩漬けにしたままの日本企業が多い中、米国では製品設計を先に決めて、特許は世界から買い集め、いち早く製品化している」と論じた。

社会課題を組織横断的に洗い出し、必要な資源を周囲からかき集めなければ、複合的な問題解決への製品やサービスが構築できない。これがいま言われる“オープン・イノベーション”の本質だ。

時価評価額が2兆円となり、ソフトバンクも4800億円を投資したコ・ワーキング・スペース“WeWork”も日本上陸となったが、ここではベンチャーマインドをもった起業家、技術者、デザイナー、投資家、弁理士や司法書士らが入り出て、自由にネットワークを組みスタートアップ企業を産み出している。

今後、教育スタイルも変わってくるだろう。体系化された専門知識を教えるだけではなく、応用として、異分野のActive Learners(参加者)がインターネットから最新の理論やデータを自由に引っ張り出し、それらを組み合わせることで社会課題を解決していくダイナミックなライブとなる。この行学一如に学生のみならず市民や行政、企業を巻き込んでいく。「世田谷プラットフォーム」にはこのための土壌づくりを期待したい。この時の教師は知識人というより、Intermediator(知識媒介人)やFacilitatorというべきだろう。

いま求められているコミュニケーション能力とは、こうした異分野の人々を束ねる力だし、これこそがアクティブ・ラーニングが注目される社会的背景なのである。

今春、種月館4Fに情報グループ学習室を設置したが、英名をProject Area for Active Organization、略称を“PAO”とした。この運営改善に学生サポーター“PAOPAL”を募集し、このスペースの活用方法や必要なサービスについて、オープン・イノベーションを早速始めようとしている。

連載企画：よりよい教育のために

「私の授業」

医療健康科学部 学部長
西尾 誠示

私の講義は医療画像技術を中心にしているので、教科書に加えてスライド(Ppt)を多く使用している。就任当初はOHPと板書を併用していたが、時間内で済ますには量が多過ぎ、板書は早々にあきらめた。

講義の準備として、まずストーリーを考えながら、Pptに画像をはめ込んで解説を加えて行く。その内容は使用する教科書に沿って、講義の目的から始まり、診療画像の意義、実際の画像技術、画像評価等で構成される。この作業を行なうとスライド作成と同時に講義の構成がしっかり頭に刻まれる。この分野は絶えず新しい技術が開発されるので、毎年同じ工程を繰り返している。更に、過去の授業アンケートでプリント資料を求められたので、Pptの重要部分をプリントにして配布している。

こうして正にPptを自画自賛して講義に向かうが、熱意を込めたスライドやプリントを必ずしも学生全員が評価してくれる訳ではない。大半の学生が画面を注視してくれるが、視線が宙に浮いている学生も少なくない。学生全員の気持ちを集中させられないのは、説明の仕方や口調などにも問題があるとも認識している。また、教材が十分な量であるために学生がそれで安心してしまい、ノートを取る学生は非常に少ない。スライドも多すぎるかも知れないが、国家試験の出題範囲と自身の教育ポリシーを考えると、減らすわけにはいかない。

スライドを用いた一方通行の授業の課題は講義内容をその場で理解できても、漠然とした印象しか残らないので、十分に記憶されないことである。対策として、学生が集中するよう、スライドに面白さを加えたり、重要部分について形を変えて投影するなど工夫すると、学生がプリントにメモするなど反応する。更に理解度を上げるため、画像解剖などを再度スクリーンに投影しクイズ形式で質問をするのもいい。また、学生の集中力や疲労度を察しながら、授業半ばで医療施設や関連学会の話をしなが

来の進路について意識を高めるよう工夫している。以前には履修者に交代でプレゼンさせる授業スタイルも試みたが、時間がかかり過ぎレベルが低下したため、結局止めてしまった。

全く同じ職業を目指す学部でさえ多様な学生が多い。学生を受け入れた以上、最低でも国家試験に合格させるために、授業の内容だけでなく、学習意欲を高める技法も工夫しなければならない。将来の目標に向かって如何にモチベーションをあげさせるか、試行錯誤が続く。

平成30年度新規採用教員オリエンテーション

本年度も4月2日に、今年度より新たにご出講いただく先生方を対象とした、オリエンテーションを開催し、専任教員21名、非常勤教員79名の計100名の先生方にご出席いただきました。

オリエンテーション第一部では長谷部八朗学長より本学の建学の理念について、中野達哉教務部長より本学の教育方針、また本学のFD活動について説明をいただきました。事務局からは、総合情報センター(「KOMAnet(コマネット)」、「ユーザーID」、「YeStudy(e-learning)等の利用について」)、図書館(「図書館の利用案内について」)、教務部(「授業運営に係る説明」)が説明を行い、第一部終了後、希望された先生方を講師控室およびAV教場にご案内しました。

第二部では、専任教員を対象に教務部から公的研究費、教員教育研究費等に関する説明を行いました。

新規採用教員オリエンテーションについて、ご意見、ご提案等ございましたら事務局までお申し出ください。

1. 開催日時

平成30年4月2日(月)14:40~17:00

2. 出席者数

100名(案内状発送161名)

3. オリエンテーション次第

- ・学長挨拶
- ・教務部長挨拶

・大学案内（教務部・総合情報センター・図書館）終了後、希望者を講師控室、A V 教場に案内した。



（平成 30 年度新規採用教員オリエンテーションの様子）

平成 29 年度 F D 推進委員会及び小委員会の活動報告

平成 29 年

4 月

- ・「新規採用教員オリエンテーション」を開催
- ・第 1 回 F D 推進委員会及び小委員会を開催

6 月

- ・第 2 回 F D 推進委員会小委員会を開催
- ・2017 年度「学生による授業アンケート」（前期）の実施

- ・FD NEWSLETTER 第 51 号を発行

7 月

- ・第 3 回 F D 推進委員会小委員会を開催

9 月

- ・平成 29 年度第 1 回 F D 研修会を実施
- ・FD NEWSLETTER 第 52 号を発行

10 月

- ・第 4 回 F D 推進委員会小委員会を開催

11 月

- ・第 2 回 F D 推進委員会を開催
- ・2017 年度「学生による授業アンケート」（後期）の実施

12 月

- ・平成 29 年度公開授業の実施（12 月 7 日まで）
- ・第 3 回 F D 推進委員会を開催

- ・第 5 回 F D 推進委員会小委員会を開催
- ・FD NEWSLETTER 第 53 号発行

平成 30 年

1 月

- ・第 6 回 F D 推進委員会小委員会を開催

2 月

- ・平成 29 年度第 2 回 F D 研修会を実施
- ・第 7 回 F D 推進委員会小委員会を開催

3 月

- ・第 4 回 F D 推進委員会を開催
- ・FD NEWSLETTER 第 54 号を発行
- ・平成 29 年度『F D 活動報告書』を発行

F D 推進委員会の今後の活動予定

- 平成 30 年度第 3 回 F D 推進委員会小委員会
平成 30 年 7 月 23 日（月）16：20 ～

- 平成 30 年度第 3 回 F D 研修会
平成 30 年 7 月下旬

テーマ：大人数科目におけるアクティブ・ラーニングの事例紹介

※F D 活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。



（本学 3 号館（種月館）4 階、アクティブ・ラーニング教場「PAO」プレゼンテーションエリア）

～2018年度「学生による授業アンケート」
(後期) 実施のお知らせ～

実施期間：平成30年11月5日(月)～24日(土)
対象科目：全科目対象(集中講義科目、演習科目、
受講生が20名未満の科目は除く)
※WEBによるアンケートを実施しています
(PC、スマートフォン、携帯電話、タブレット等
を使用して回答されます)。

2018年度「学生による授業アンケート」(前期)を、
平成30年6月4日(月)～23日(土)の期間に実施
いたしました。

今年度より、学生は自分が回答した科目のアンケー
ト集計結果を、6月25日(月)～7月8日(日)の間、
WEB上で確認することができるようになりました。

また、教員によるフィードバックも、WEB上で行
うことができます。



編集後記

ここに、今年度最初の『FD NEWSLETTER』55号を
お届け致します。

総合情報センター所長の青木先生に巻頭言を賜り
ました。組織横断的な知識の活用が求められるなか
で、教育活動も大きな変容が迫られています。そこ
で、情報システムの活用が不可欠であって、多様な
知識、能力を持つ参加者どうしのアクティブラー
ニングによって、創発的な集合知を見出すためのアイ
デアを提示されています。

今号では昨年度のFD活動報告を掲載致しました

が、これまでの検討をふまえ、今年度は、学修成果
の可視化が求められるなかで、有用なツールとなり
うる学習ルブリックの使用法について、本学のe
ラーニングシステムの一つであるYeStudyを活用し
たFD研修会を開催致しました。FD活動の主管部
局である教育支援係と総合情報センターとの間で蓄
積されたノウハウを交換したコラボレーション企画
となり、従来とは趣きの異なった研修会となりまし
た。共同企画にご快諾いただいた青木所長をはじめ
として、実施にあたりご協力、ご参加いただいた先
生方、両部署の関係者の皆様方に感謝申し上げます。

また、連載企画では医療健康科学部の西尾先生に
御寄稿を賜りました。授業にあたり、教員の意図を
多様な価値観を持つ学生たちに伝えることの難しさ、
学生に対する学びの動機づけの難しさを指摘されて
います。教える側と学ぶ側との双方向のやり取りが
授業運営に必要であることを痛感させられました。
ご協力ありがとうございました。

今年度も様々なFD活動を実施して参りますので、
ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申し上
げます。

(中川淳平・馬込大貴)

【タイトル横の写真は、
平成30年4月に完成した本学3号館4階アクティブ・ラ
ーニング教場：「PAQ」ラウンドテーブルエリア】

FD NEWSLETTER Jun. 2018 第 55 号

発行日：2018年6月30日

発行者：駒澤大学FD推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)